

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「基本を学び、地域と共に」

高田ロータリー今年の
スローガン

「ロータリーを識り、
奉仕を実践し友情を深めよう」



人類に
奉仕する
ロータリー

2016～2017年度

国際ロータリー会長 ジョンF.ジャーム
2560地区ガバナー 田中 政春
高田ロータリー会長 本山 秀樹
幹事 中田 正

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
加藤 卓也 伴 長門 斉藤 光雄 佐藤 芳徳

第9回例会 ■ 9月2日(金)

No.9

会長挨拶 ● 本山 秀樹



皆さん、こんにちは

昨日9月1日は、「防災の日」でした。大正12年(1923)同日に関東大震災が起きたこと、また、暦の上で台風の多い二百十日に当たることから、昭和35年(1960)に制定されました。台風・高潮・地震などの災害に対する認識を深め、平時の備えについて確認するための日であります。

最近では、毎週のように日本列島に台風が上陸し、大きな被害が出ています。今回の台風10号も進路を迷走した後に岩手県、北海道に大きな被害をもたらしました。自然の猛威を感じ、災害に対しての防災意識を持ち、常に災害に対する備えを怠らないようにすることが大切だと思いました。

9月は、「基本的教育と識字率向上月間」です。世界には、学校教育が受けられない子供たちが6,700万人、読み書きができない15歳以上の人が7億7,500万人以上います。ロータリーは、世界の地域社会で、教員研修、職業研修、給食、廉価な教科書を提供する教育プロジェクトを支援しており、地域社会が基本的教育と識字率を改善

できるよう、その能力を高めることを目標としています。ロータリーを通して少しでも貢献したいものです。

出席報告

出席率 96.15%

メイクアップ

高坂光一君(8/25糸魚川RC・糸魚川中央RC・8/29高田東RC・9/1越後春日山RC)
飯塚宏佳君(8/30直江津RC)
本山秀樹君・中田正君(9/3第7分区会長幹事会)

委員会報告

出席・ニコニコBOX委員会

宮澤英文君——先日、通算5番目の孫が(男子)誕生しました。

佐藤信君——本日チラシ入れさせて頂きました。奥様が行くとおっしょってでも止めないでください。背中を押してあげてください。

国際奉仕委員会(チャーリー委員)——国際奉仕フォーラム参加報告

幹事報告

配布物：週報No.8、ロータリーの友9月号

回覧物：ガバナー月信9月号、財団ニュース、米山梅吉記念館「館報」、秋季例会の案内、賛助会入会のお願い

卓話 上越の近代化を促進した「関川水系の電源開発」について



郷土史研究家 西山 耕一様

明治三十九年八月、高田に「上越電気」（後に「越後電気」、さらに「中央電気」となる）が創立された。この明治末期は、電気事業界では遠距離送電と大容量水力発電の成功による「飛躍時代」を迎えようとしていた時であった。

そんな中、上越地域に電気事業を興そうと考えたのは、妙高市の金子伊太郎らで、それを支えたのが後に専務となる技師長の国友末蔵であった。彼らが最初につくった蔵々発電所は、上越に文明の明かりを灯し、師団の誘致にも影響を与えた。また県内初の電気化学工業の勃興にも寄与した。発電所が立地する蔵々は、驚愕の「Ω（オメガ）」形の地形で一見の価値がある。

また昭和九年に完成した池尻川発電所は、国友末蔵のアイデアである日本初の揚水式発電所である。揚水と落水の周期形態は、関川の河川の特徴である季節による流量変化と、野尻湖水を最大限に活用し一年に二回の周期（サイクル）という世界でも珍しい発電所である。

さらに昭和十四年に完成した板倉発電所は、高田平野の長い間の懸案であった用水組合間の係争問題を解決することにつながった。

ここでは紙面の都合で三発電所のみの紹介だが、中央電気は戦時体制で解散する昭和十七年までの三十七年間に、関川水系に九つの特色ある発電所を完成させた。そして、この間地域に明かりを灯し工場の動力化を進めた。また今日、日本を代表するような多くの工場を設立・誘致し、人々に雇用の機会を提供してきた。さらに農村の電化を促進し、用水間の水争いを解決し安定した農業経営に貢献してきた。

このように現在の私たちの生活の基盤は、近代期に形成されてきたと言っても過言ではない。その意味で「上越の近代化は関川水系の電源開発により始まった」のである。

私たちは、この地域の宝を守り活かしていくことが、地域の発展に貢献した先人の苦勞と努力に報いることになるのではないだろうか。

ロータリーの友 9月号より

P 3 ジョン F・ジャーム会長メッセージから（抜粋）

第一次世界大戦にアメリカが参戦した直後の1917年、アトランタで開催された第8回年次大会でポールハリスは後に最も多く引用される次の言葉を残しています。「個人の努力が十分に向けられた時、多くを成し遂げることができますが、最大の善は、多くの人の努力が結集することから実現するものです。個人の努力は個人のニーズに向けることができます。しかし、大勢の努力の結集は、人類の奉仕にささげられるに違いありません。結集された努力に限界はありません。」